15日　月曜

列王Ⅱ

11:1 アハズヤの母アタルヤは、自分の子が死んだと知ると、ただちに王の一族全員を滅ぼした。
11:2 しかし、ヨラム王の娘で、アハズヤの姉妹のエホシェバは、殺される王の子たちの中からアハズヤの子ヨアシュをこっそり連れ出し、寝具をしまう小部屋にその子とその乳母を入れた。人々が彼をアタルヤから隠したので、彼は殺されなかった。
11:3 彼は乳母とともに、【主】の宮に六年間、身を隠していた。その間、アタルヤが国を治めていた。
11:4 七年目に、エホヤダは人を遣わして、カリ人と近衛兵それぞれの百人隊の長たちを【主】の宮の自分のもとに来させ、彼らと契約を結んで【主】の宮で彼らに誓いを立てさせ、彼らに王の子を見せた。
11:5 彼は命じた。「あなたがたのなすべきことはこうだ。あなたがたのうちの三分の一は、安息日に務めに当たり、王宮の護衛の任務につく。
11:6 三分の一はスルの門に、もう三分の一は近衛兵舎の裏の門にいるように。あなたがたは交互に王宮の護衛の任務につく。
11:7 あなたがたのうち二組は、みな安息日に務めに当たらない者であるが、【主】の宮で王の護衛の任務につかなければならない。
11:8 それぞれ武器を手にして王の周りを囲め。その列を侵す者は殺されなければならない。あなたがたは、王が出るときにも入るときにも、王とともにいなさい。」
11:9 百人隊の長たちは、すべて祭司エホヤダが命じたとおりに行った。彼らは、それぞれ自分の部下たちを、安息日に務めに当たる者も、安息日に務めに当たらない者も、祭司エホヤダのところに連れて来た。
11:10 祭司は百人隊の長たちに、【主】の宮にあったダビデ王の槍と丸い小盾を与えた。
11:11 近衛兵たちはそれぞれ武器を手にして、神殿の右側から神殿の左側まで、祭壇と神殿に向かって王の周りに立った。
11:12 エホヤダは王の子を連れ出し、王冠をかぶらせ、さとしの書を渡した。こうして人々は彼を王と宣言し、彼に油を注ぎ、手をたたいて「王様万歳」と叫んだ。

Bible Reference 聖書の記述

アタルヤはイスラエルの悪王アハブと、バアル信仰をもたらした悪妃イゼベルの娘です。彼女はイスラエル王国からユダ王アハズヤに嫁いだのでした。彼女は身勝手な野心家で、自分の息子である王が死んだと見るや、自分が王となるべく嫁ぎ先である王の家族を殺してしまいました。

ユダ王国の王であるアハズヤがアタルヤと結婚したことが災いとなったのでした。彼らは隣国イスラエルとの政治的融和を図ったのですが、肝心な神への信仰をないがしろにしたのでこのような結果を生んだのです。

結婚とは人と人とが一つとなることです。ですから一方が偶像邪教に仕えているなら、その影響は計り知れません。やはり結婚において、また家庭を築くにあたっては、主を尊重して祝福をいただけるようにしましょう。

アタルヤの身勝手さは続きませんでした。王家の子ヨアシュが生き延び、王位に着いてダビデの血筋は守られたのです。列王記は人間の不信仰の連続ですが、その中で主の確かな御手が動いています。それだから信仰を持って生きた人々には、その信仰が完全でないとしても、主の守りがあるのです。現代においてもそれは同じです。主を信じて勇気を持って、正しい信仰を行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？